

# 埼玉県四半期経営動向調査結果について(平成16年7～9月期)

## I 調査結果の総括

「県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きがみられる。

今後の見通しについては、慎重な見方をしているものの、引き続き回復の動きが見込まれる。」

○経営者の景況感／改善が続いている。

特に、製造業では現状を「好況」又は「普通」とみている企業が5割を超えた。

○売上げ／前期に続き改善しており、来期も引き続き改善する見通しである。

○資金繰り及び採算／総じて悪化に転じたものの、来期は改善する見通しである。

○設備投資／2期連続で実施率が上昇しているものの、来期は低下する見通しである。

○その他(ヒアリング)／製造業は総じて業況が上向いているものの、百貨店を始めとする小売業では、回復感は乏しく、総じて厳しい状況が続いている。

## II 調査要領

### (1) 調査方法及び調査対象

#### (1) アンケート調査

- ・ 製造業 : 900企業中、回答数 627企業 (回答率69.7%)
- ・ 非製造業※ : 1,300企業中、回答数 947企業 (回答率72.8%)
- 計 : 2,200企業中、回答数1,574企業 (回答率71.5%)

※ 非製造業は建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、医療業、サービス業

#### (2) ヒアリング調査

- ・ 製造業 : 24企業・組合
- ・ 小売業 : 8企業・商店街
- ・ 情報サービス業 : 3企業
- 計 : 35企業等

### (2) 調査対象期間

平成16年7～9月 (調査時期:平成16年9月)

### (3) 実施機関

埼玉県労働商工部産業企画課及び埼玉県労働商工センター

### III 調査結果概要

#### 1 アンケート調査結果の概況

※ D I (景気動向指数 : Diffusion Index)とは、例えば「好況」と回答した企業割合から「不況」と回答した企業割合を差し引いた指数で、企業の景況判断等の強弱感の判断に使用する指数のことである。

〈例〉「好況」4.5% 「普通」32.5% 「不況」63.0%

$$D I = 4.5\% - 63.0\% = \blacktriangle 58.5$$

#### (1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

「前期に続き改善している。特に、製造業では現状を「好況である」(10.3%)又は「普通である」(42.2%)とみている企業の合計が5割を超えた。」

自社業界の景気について、全体では「好況である」とみる企業が5.5%、「不況である」が54.5%で、景況感のD I (「好況である」－「不況である」の企業割合)は▲48.9となり、平成15年1～3月期以降、7期連続で改善している。

〈景況感D I : 前期 → 当期 (前年同期)〉

- ・全体 : ▲53.0 → ▲48.9 (▲69.0)
- ・製造業 : ▲45.9 → ▲37.2 (▲62.5)
- ・非製造業 : ▲57.6 → ▲56.7 (▲72.3)

今後の景気見通しについては、「悪い方向に向かう」とみる企業が前期に比べわずかに減少しているものの、「良い方向に向かう」とみる企業も前期に比べ減少しており、慎重な見方が続いている。

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合 : 前期→当期〉

- ・全体 : 12.0% → 9.2%
- ・製造業 : 14.2% → 11.4%
- ・非製造業 : 10.7% → 7.8%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合 : 前期→当期〉

- ・全体 : 20.7% → 20.2%
- ・製造業 : 16.7% → 18.2%
- ・非製造業 : 23.4% → 21.6%

#### (2) 売上げについて

「前期に続き改善しており、来期は大幅に改善する見通しである。」

製造業及び非製造業の当期の売上げD Iは、前期に比べ上昇している。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iを大幅に上回ることが見込まれている。

〈売上げD I： 前 期 → 当 期（前年同期） → 来 期〉

- ・全 体：▲17.7 → ▲12.9（▲23.6） → 8.0
- ・製 造 業：▲14.6 → ▲10.0（▲17.5） → 16.2
- ・非製造業：▲19.8 → ▲14.9（▲26.8） → 2.6

### （3）資金繰りについて

「6期ぶりに悪化へ転じたものの、来期は改善する見通しである。」

当期の資金繰りD Iは、製造業は6期連続で改善しているものの、非製造業では6期ぶりに悪化へ転じた。

来期については、製造業、非製造業ともに改善する見通しである。

〈資金繰りD I： 前 期 → 当 期（前年同期） → 来 期〉

- ・全 体：▲15.9 → ▲17.0（▲25.7） → ▲ 7.9
- ・製 造 業：▲12.5 → ▲10.5（▲21.6） → ▲ 0.7
- ・非製造業：▲18.1 → ▲21.4（▲27.9） → ▲12.6

### （4）採算について

「6期ぶりに悪化へ転じたものの、来期は大幅に改善する見通しである。」

製造業及び非製造業の当期の採算D Iは、前期に比べ低下しており、特に非製造業では6期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iを大幅に上回ることが見込まれている。

〈採算D I： 前 期 → 当 期（前年同期） → 来 期〉

- ・全 体：▲27.9 → ▲31.2（▲36.0） → ▲11.1
- ・製 造 業：▲23.9 → ▲26.8（▲30.3） → ▲ 4.7
- ・非製造業：▲30.6 → ▲34.1（▲39.0） → ▲15.5

### （5）設備投資の動向について

「実施率は、2期連続で上昇しているものの、来期は低下する見通しである。」

当期に設備投資を実施した企業は28.0%で、2期連続で実施率が上昇した。

来期に設備投資を予定している企業は22.4%で、5.6ポイント低下する見通しである。

〈設備投資実施率： 前 期 → 当 期（前年同期） → 来 期〉

- ・全 体：27.5% → 28.0%（29.3%） → 22.4%
- ・製 造 業：31.7% → 32.2%（28.7%） → 27.1%

・非製造業 : 24.7% → 25.3% (29.6%) → 19.2%

## 2 ヒアリング調査結果の概況

### (1) 製造業

多くの業種で、業況は改善傾向にある。

売上げは、多くの業種で、前年同期を上回っている。

受注単価については、下がった企業とほとんど変わらない企業があった。

採算については、原材料や原油価格などの上昇により総じて厳しい状況にあるが、売上げの増加や合理化努力により良くなったとする企業もみられた。

原材料価格については、銑鉄・スクラップなどが依然として上昇している。樹脂などの副資材については、原油価格上昇の影響により、今後値上がりするとする企業があった。

受注動向は、総じて上向いている。

- ・ 射出成形機関連は、海外向けを中心に引き続き好調となっている。
- ・ 自動車関連は、国内生産の増加や、ヨーロッパ向けのディーゼル車の伸びにより、安定している。
- ・ 半導体製造装置を始めとする半導体関連は、デジタル家電向けなどに牽引されて、当期も好調に推移している。しかし、一部の企業は、今後は調整期に入るとして、先行きを警戒している。

設備投資については、一般機械製造業及び電気機械製造業を中心として、老朽化した設備の更新や新規工場の建設などを実施した企業がみられた。

### (2) 小売業

総じて業況の回復感は乏しく、厳しい状況に変化は見られない。

- ・ 百貨店は、冷夏で苦戦した前年同期の水準をさらに下回り、不況感は根強い。
- ・ ディスカウントスーパーは、猛暑の影響により来店客数が減少しており、依然として厳しい状況にある。
- ・ 商店街については、売上げが総じて前年同期を下回っており、業況回復は遅れている。

### (3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

業況は改善傾向にある。

- ・ 売上げは堅調に推移し、引き合いは増加している。